



KYOTO EXPERIMENT Office
6F 7th Hase Bldg.
229-2 Shoshoi-cho, Nakagyo-ku, Kyoto
604-0862 JAPAN
Tel +81 75 213 5839 Fax +81 75 213 5849



KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2023 プログラム発表

広報に関するお問合せ先☎ KYOTO EXPERIMENT 事務局（広報担当：小倉、豊山、前田）

Tel: 075-213-5839 Mail: pr@kyoto-ex.jp

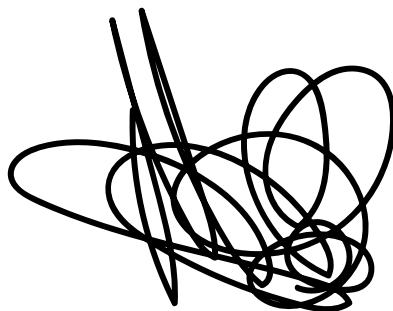
※本資料に掲載の画像をご使用希望の場合は上記までご連絡ください。

その他のお問合せ☎ KYOTO EXPERIMENT 事務局

☎ 604-0862 京都市中京区少将井町 229-2 第7長谷ビル 6F

Tel: 075-213-5839（平日 11:00-19:00 [開催期間中は無休]） Fax: 075-213-5849

Mail: info@kyoto-ex.jp Web: kyoto-ex.jp



KYOTO EXPERIMENT とは

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭は、
2010年より毎年開催している京都発の国際舞台芸術祭です。

国内外の「EXPERIMENT（エクスペリメント）＝実験」的な舞台芸術を創造・発信し、
芸術表現と社会を、新しい形の対話でつなぐことを目指しています。
演劇、ダンス、音楽、美術、デザイン、建築などジャンルを横断した実験的な表現が集まり、
そこから生まれる創造、体験、思考を通じて、舞台芸術の新たな可能性をひらいていきます。

※プレスリリースは、ウェブサイトよりダウンロードできます。

<https://kyoto-ex.jp>

※広報用画像は、ウェブサイト内プレスページにてパスワードを入力いただくと
ダウンロードできます。パスワードは下記までお問合せください。

KYOTO EXPERIMENT 事務局（広報担当：小倉、豊山、前田）

Tel：075-213-5839（平日 11:00-19:00 [開催期間中は無休]） Mail：pr@kyoto-ex.jp

目次

p.5	開催趣旨、概要
p.6	ごあいさつ
p.7-8	ディレクターズ・メッセージ
p.9	フェスティバルを構成する3つのプログラム
p.10-11	Kansai Studies (リサーチプログラム)
p.12-22	Shows (上演プログラム)
	1. イ・ラン
	2. ウィチャヤ・アートマート / For What Theatre
	3. チェルフィッチュ
	4. アリス・リポル / Cia. REC
	5. バック・トゥ・バック・シアター
	6. 山内祥太&マキ・ウエダ
	7. 中間アヤカ
	8. ルース・チャイルズ&ルシンダ・チャイルズ
	9. デイナ・ミシエル
	10. マリアーノ・ペンソッティ / Grupo Marea
	11. サムソン・ヤン
p.23-26	Super Knowledge for the Future [SKF] (エクスチェンジプログラム)
p.27	ミーティングポイント、フリンジ「More Experiments」
p.28	感想シェアカフェ、ブックフェア、パートナーホテル
p.29-31	関連プログラム、提携プログラム
p.32	会場
p.33-34	チケット情報
p.35	KEX サポーター
p.36-37	スケジュール
p.38-39	開催クレジット

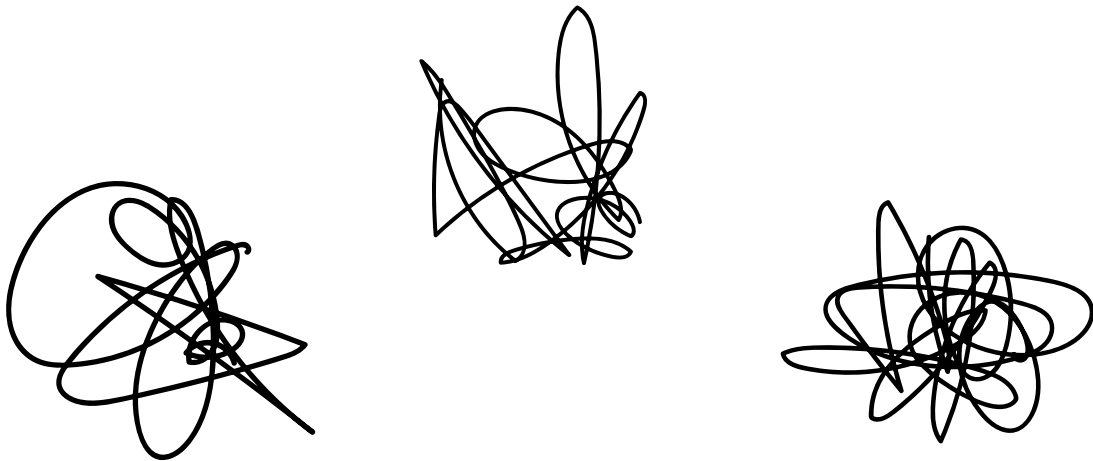
📖 開催趣旨

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2023 は、「まぜまぜ」をキーワードに、多様な人々と舞台芸術の出会いと対話が可能になるフェスティバルとして開催します。

「まぜまぜ」は、国内外でさまざまな分断や二項対立的な思考が顕著になってきた現在において、変化や交わることを積極的に取り入れ、可変性や流動性、複数性を思考の軸のひとつとしていくことを提案するキーワードです。

言語・民族・国家といった自明の帰属関係を流動的であると捉え、言語のあり方が変遷していくことや混在していくこと、個人のアイデンティティも変化し、他者の影響が混じることなどをプログラムを通して考え、これからの世界を捉え直すきっかけとなることを提案します。

フェスティバルが根ざす関西地域をアーティストの視点で探究し、未来の創造的な土壌を耕していくためのリサーチプログラム「Kansai Studies」、世界各地の実験的な舞台芸術を紹介する上演プログラム「Shows」、実験的表現とそれが生まれる背景や、いまを考えるトピックを扱うワークショップやトークが体験できるエクスチェンジプログラム「Super Knowledge for the Future [SKF]」の3つのプログラムでフェスティバルを展開します。



📖 概要

会期📖 2023年9月30日(土) - 10月22日(日)

会場📖 ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座、
THEATRE E9 KYOTO、京都市京セラ美術館、ほか

主催📖 京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、
京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、
京都芸術大学 舞台芸術研究センター、
THEATRE E9 KYOTO(一般社団法人アーツシード京都)]

📖 ごあいさつ

京都市長ご挨拶

芸術表現の最先端を走り続ける「KYOTO EXPERIMENT」の開催を、心からお祝い申し上げます。

14回目を迎える今年のキーワードは「まぜまぜ」。

多様性、重層性に富んだ文化が息づく京都を舞台に、

新進気鋭の表現者の方々が紡ぎ出す壮大な実験（EXPERIMENT）は、

言葉や文化の違いを超えて、私たちの心を大いに揺さぶることでしょう。

御来場のみなさまには、今ここでしか出会えない先鋭的な作品と新たな交流を、

ぜひお楽しみください。

表現者、鑑賞者の垣根を超えたこの芸術祭での豊かな実りを心から願っています。

本年3月に機能強化した文化庁が移転し、京都は名実ともに「文化首都」となりました。

文化芸術がまちの隅々まで息づくここ京都から、文化の力で暮らしを豊かにし、

日本中を元気にしていく決意です。

結びに、開催に御尽力いただいた天野文雄委員長をはじめとする実行委員会の方々、

および関係者のみなさまに厚く御礼申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。

京都市長 門川大作

芸術は誰が支えるのか

この数か月ほどの短いあいだに、芸術支援についての注目すべき2つの提言が公にされた。

いずれも京都からの発信だが、ひとつは、本芸術祭の前プログラムディレクターだった

橋本裕介氏の編著になる『芸術を誰が支えるのか—アメリカ文化政策の生態系』

（発行：京都芸術大学 舞台芸術研究センター）であり、

もうひとつは、「新しい文化政策プロジェクト」（代表：佐野真由子氏）が発行した

13頁の小冊子『社会の分子ではなく、分母としての文化政策』である。

前者は、12人のアメリカの芸術支援関係者へのインタビューを中心とした360頁の証言集、

後者は文字通りの小冊子だが、両者の基本理念は、「特定のファンから社会一般へ」「分子から分母へ」であって、

期せずして理念が共通しているのは、現在の芸術がそういう転回点にあることを教えてくれる。

本芸術祭はこの二編が対象としている芸術団体で、立場としては対極にあるが、

この二編の基本理念は今後のわれわれにとっても肝に銘ずべきものだろう。

橋本氏の言葉を借りるなら、「大小、様々な芸術団体が、資金調達のプロセスにおいて、

それぞれの規模とミッションに見合った工夫を凝らして、

「芸術の価値」を他者に向かって説得する努力を積み重ねる」、ということでもあろう。

今回のキーワードは「まぜまぜ」だが、

これには「芸術の価値」を「分母」としての「社会一般」に説いてゆくことも含まれているのである。

京都国際舞台芸術祭実行委員長 天野文雄

☞ ディレクターズ・メッセージ

KYOTO EXPERIMENT 2023 は、「まぜまぜ」をキーワードとして開催する。キーワードは、この言葉を鍵としてさまざまな問いへの扉を開いていけたら、というイメージで設定している。したがって、フェスティバルで紹介する全ての作品がこの言葉のもとにおさまるようなテーマではなく、プログラムへの多様な視点を獲得するための言葉と考えている。

「まぜまぜ」に行き着くまでの大きなヒントは、今年の Shows プログラムのうちいくつかに見出せる、「言語（身体言語を含む）」や「継承」、「アイデンティティ」といったアイデアである。これらの概念は、単一的な真正性が問えるものではなく、さまざまなものが混ざり合いながら存在しているのではないかと、ということをディレクターチームで話し合った。翻って、いまの国内外の状況では、さまざまな分断が進み、白か黒か、という二項対立的な思考が顕著になっているようにも感じる。「まぜまぜ」は、そうした状況において、可変性や流動性、複数性を思考の軸のひとつとすることはできないかと考え、設定したキーワードである。

アイデンティティや帰属について考えるとき、国籍・民族・言語がその出発点になることが多いのではないだろうか。「まぜまぜ」というキーワードを通してこれらの出発点を思考することで、現代社会をオルタナティブなやり方で捉える余地が生まれるかもしれない。

プログラムにおいては、第二言語としての言語、ダンスや身振りなどの身体言語、そしてそれらがどのように受け継がれていくのか、また、文化の純粋性という概念や、文化が伝達され、循環していく中でどのように変化していくのか、といった問いやトピックを扱う作品群を紹介する。より広い視点においては、文化的・社会的アイデンティティがどのように構築され・あるいは解体されるか、そこでどのような権力構造やヒエラルキーが作用しているかを考察できるかもしれない。

今回は、プログラムの構成や各作品について解説することよりも、私たち3人が「まぜまぜ」から考えたことをディレクターズ・メッセージとしたい。これをきっかけに、このフェスティバルに参加するみなさんも考えをまぜまぜしながら、Kansai Studies、Shows、Super Knowledge for the Future [SKF] からなるプログラムを楽しんでいただければ幸いである。

本物とスタンダードのゆくえ（川崎陽子）

自分にとって一番身近なまぜまぜとして、関西弁のことを書いてみたい。

札幌で過ごした子どものころ、私は家の外では標準語に近い話し方（北海道弁もあるのだが、女子の間では標準語っぽい話し方が多かった）、家の中では関西弁、という生活を送っていた。うちの家族はもともと京都ベースだったので、関西弁が家族間の共通言語だったのである。ちなみに何度か引っ越しをしていて、私は札幌で幼少期から中学までを過ごしたが、生まれたのは三重である。だから、いまでも出身を聞かれるとちょっと説明が必要になる。だいたい「出身」って、どんな地域的・文化的アイデンティティを持っているのか確認するみたいなことに感じてしまって、では自分がそういう点ではどこ出身と言えれば良いのかと思うと、よく分からない。それはさておき、自分では家の外と中の話し方を完璧に使い分けていると思っていたのだが、外と中が同じで良くなった京都を通った高校で、同級生から「あなたの関西弁はちょっと変わっている」と言われたのである。そこで初めて、どうやら自分の関西弁は自負していたより本物ではなくなっているらしい、と気づいた。三重でも地元特有のアクセントや言葉があるし、北海道では家の外の社会的な生活は標準語だったのだから、当然といえば当然。それからは、努めて同級生のしゃべり方を真似したものの、おそらく私の関西弁はずっと混ざったままなのだと思う。もっと後になって、そもそも「標準」語って何だろうとか、それが日本の近代化の過程で生み出された概念であったことなどを知ったけれど、キープできる「本物らしさ」なんてあるはずもなく、あらかじめ設定されている「スタンダード」だっただけなのだと考えることは初めは少し怖くもあり、今では何か自由さを与えてくれるような気もする。

それはウイルスのごとく（塚原悠也）

改めて、パンデミックが広く地球上を覆いつくして人々の生活様式に瞬時に影響を与えたことは、いろいろな意味で示唆的だった。ウイルスは物理的に媒介することが前提なのにあっていう間に地球上に広がり、アマゾンの奥地にまで届いたというニュースすら見かけ、誰かが咳をするとそこまで届くのかと驚いた。逆に言うと、いろいろな価値観や情報も今やウイルスより早くこの惑星を覆いつくすはずなだけだ。株式情報を隣町へ伝書鳩で拡散していたという時代すらあったのに。「本当に必要か？この情報」って思うものも含めて、日々そういった情報を目や耳に入れ続ける。こういった情報のすべてが個々人のあり方、アイデンティティを形成し、何をどう感じ、考え、発信するのかなどを規定？ガイド？する。自分が中学生のころに「キャラ」という言葉が出始めた。周りの子どもたちが、集団の中での自分の立ち位置を決定するためアイデンティティを固定化しようとする試みだったと思うけど、基本的には限られた、アニメなどを参考に知った素材を取捨選択するようなものだったと思う。それが服装やししゃべり方に影響を与えて。でも本来はもっと選択権のないような身体的な影響のほうがより深く自身に食い込んでいくのではないか。生まれた土地のことや、毎日会う友人のしゃべり方（小学生のころ「森君語」という特殊な話し方が教室中に広がって誰もやめられなくなったことがある）、親が作る料理など、思いもよらず目撃してしまった物とか、それらの影響がどんどん混じっていく日々。そもそも自分で規定出来るようなものじゃないのかも？と思ったり。もしくはそれが「文化」、「まぜまぜ」られて行く日々、か。

なんかシュールだよな？（ジュリエット・礼子・ナップ）

日本語のカタカナは外来語に使われる。例えば英語の「Banana」とカタカナの「バナナ」は同じ黄色い果物を表すのに使われるように、名詞は多くの場合、そのままの意味を保つ。しかし、より概念的なものを表現する言葉がカタカナになると、その言葉に含まれる意味が変化すると感じることが多い。これらの外来語は、カタカナを通して日本語の一部となり、それによって異なる身体や文化を通り抜ける。その過程で、言葉は変容し、あるものは言葉から消え去り、別のものが言葉にくっつくようになる。

私の日本人の友人は、「シュール」という言葉をカジュアルな感じでよく使っていた。私はこの言葉を便利な新しい日本語だと思い、半年ほどかけて文脈からその意味を学び、自分でも使い始めた。ある日、友人に「しゅうるってどう書くの？」と尋ねると、驚いたことに「カタカナでシュール」と返ってきた。英語以外の言語からの借用語かもしれないと思い、すぐにググってみた。それが英語の「surreal」から来ていると知ってショックを受けた。「シュール」が「surreal」であることをずっと理解していなかったことを恥ずかしく思うと同時に、それが「surreal」であることを知らずに、「surreal」という概念を学び、理解し、体験してきたことに、ある種の喜びを感じた。

しかし、この経験をよく考えてみると、日本語の「シュール」には英語とは違うニュアンスがあると感じた。「シュール」は、（良い意味で）変とか奇妙という意味で使われることがあり、英語の「シュール」よりも広義の意味を持っているのかもしれない。カタカナではこのようなことがよく起こり、英語圏出身の日本語話者は混乱することが多い。カタカナの借用語は他の単語に変化し、いつの間にか独自の生命を持ち英語の正確な意味を保つことができない。私は最近、言語、特に英語が異文化によって侵食されたり変容したりする柔軟性を見出し、そしてなぜそのようなことが起こるのかを考えることを楽しむようになった。

最後に、KYOTO EXPERIMENT は2023年度より、寄付支援制度として「KEX サポーター」を始動していることをお伝えしたい。このフェスティバルにおける経済的な状況は大きな変化を迎えており、2022年はクラウドファンディングを実施した。今年からは、より継続的に支えていただける方法として、サポーター制度を新設した。この制度を通して、KYOTO EXPERIMENT という実験的な表現のプラットフォームを今後お支えいただければ幸いである。

☞ フェスティバルを構成する3つのプログラム

カンサイ・スタディーズ

① Kansai Studies (リサーチプログラム)

京都発の国際フェスティバルとして、自分たちが立脚する「地域」について自覚的に捉え、フィールドワークを通して探求するプログラム。アーティストが中心となり、地域住民やプロデューサー、研究者と一緒に、京都や関西の文化を継続的にリサーチしていきます。活動を通じて生まれた思考の軌跡やプロセスは特設ウェブサイトに蓄積され、誰もがアクセスできるオンライン図書館として公開。未来のクリエイターや企画のためのナレッジベースや実験場、アイデアソースとなることを目指します。

☞ リサーチメンバー

今村達紀 [京都]、谷 竜一 [京都]、野咲タラ [京都]、迎 英里子 [滋賀]、山田淳也 [兵庫]

ショウズ

② Shows (上演プログラム)

世界各地から先鋭的なアーティストを迎え、いま注目すべき舞台芸術作品を上演するプログラム。京都および関西における舞台芸術の変遷と動向に注目しながら、ダンス、演劇、音楽、美術といったジャンルを越境した実験的作品を紹介します。

☞ 参加アーティスト

イ・ラン [ソウル (韓国) | オーディオ・パフォーマンス]

チェルフィッチュ [東京 (日本) | 演劇]

ウィチャヤ・アートマート / For What Theatre [バンコク (タイ) | 演劇]

アリス・リポル / Cia. REC [リオデジャネイロ (ブラジル) | ダンス]

バック・トゥ・バック・シアター [ジーロング (オーストラリア) | 演劇]

山内祥太 & マキ・ウエダ [相模原 / 石垣島 (日本) | パフォーマンス]

中間アヤカ [神戸 (日本) | ダンス]

ルース・チャイルズ & ルシンダ・チャイルズ [スイス / アメリカ | ダンス]

ダイナ・ミシェル [モントリオール (カナダ) | パフォーマンス]

マリアーノ・ペンソッティ / Grupo Marea [ブエノスアイレス (アルゼンチン) | 演劇]

サムソン・ヤン [香港 | 展示]

スーパー・ナレッジ・フォー・ザ・フューチャー

③ Super Knowledge for the Future [SKF] (エクスチェンジプログラム)

アーティストは未来を予見する!? とりわけ実験的な舞台芸術作品と社会を対話やワークショップを通してつなぎ、新たな思考や対話、フレッシュな問題提起など、未来への視点を獲得していくプログラム。実験的表現が映し出す社会課題や問題をともに考え、議論し、現代社会に必要な智恵や知識を深めていきます。ここで獲得できるスーパー知識(ナレッジ)は、予測不能な未来にしなやかに立ち向かうための拠り所となるはずです!

📖 Kansai Studies

Kansai Studies は、フェスティバルが根ざす関西圏を対象としたリサーチプログラム。アーティストの視点で地域の文化や風土をフィールドワークし、未来の芸術表現を豊かにする「原石」を掘り起こしていくものだ。2020-2022年度は、リサーチメンバーに建築家ユニットの dot architects、演出家の和田ながらを迎え、生活に身近な「水」「食事」「循環」をテーマに実施。KYOTO EXPERIMENT 2022 では、3年間の集大成として演劇作品の上演を行った。

2023年度からは、新メンバーでプロジェクトが始動。公募で集まった5名が現在、各自が設定したテーマでリサーチを行っている。路上アートに先祖信仰、近現代詩など、その内容は実にユニークで幅広い。これらが同時進行し、メンバー相互のプロセス共有も行われるなかで起きる化学反応にも期待したい。リサーチ中に起こったあらゆる出来事や発見、思考はテキストや映像で記録され、特設ウェブサイトですぐ公開・アーカイブされる。フェスティバル会期中には、リサーチの経過報告を兼ねたパブリックイベントを開催する。

2023年度リサーチャー／リサーチテーマ（五十音順）

今村達紀「路上の園芸とグラフィティなどについて」

谷 竜一「まだ詩になっていない場所をさがす」

野咲タラ「各地域における農耕牛の記憶について」

迎 英里子「関西にある水場を埋めてできた土地についてのリサーチ」

山田淳也「慰霊の文化についてのリサーチ」

* 会期中のパブリックイベントは、KYOTO EXPERIMENT ウェブサイト及び Kansai Studies 特設サイトにて後日お知らせします。

KANSAI STUDIES

Kansai Studies 特設サイト

kansai-studies.com

今村達紀 Tatsunori Imamura

振付家・ダンサー。愛媛大学理学部生物地球圏科学科卒業。推積学専攻。卒業後愛媛大学医学部で病理切片と電子顕微鏡の試料作成に携わる。2008年京都に移住。描く軌跡、音の響き、動きの軌跡にフォーカスしたイベント「echo」を不定期に行っている。

2014年4月1日から毎日どこかで呼吸を止めて踊っている。

https://www.youtube.com/channel/UCTM_8yLxIN-9ZT8K7p6pV7w/videos



©Kai Maetani

谷 竜一 Ryuichi Tani

詩人・演劇作家・芸術労働者。1984年福井県大飯郡高浜町生まれ。東舞鶴高等学校在学中に詩作を始め、山口大学在学中に舞台芸術ユニット「集団：歩行訓練」を立ち上げ、現在まで陰に日向に演劇等の作品を制作。大学院修了後、京都芸術センターアートコーディネーター、京都府地域アートマネージャー（山城地域担当）を経て、2021年から京都芸術センタープログラムディレクター。演劇作家としての近作に、BEBERICA theatre company「あかちゃんとおとなのための演劇 ペイビーシアター『水の駅』」（2022、演出）等。バンド「swimm」のメンバーでもある。



野咲タラ Tara Nosaki

小説・ZINE作り。制作物にウリ科野菜ハヤトウリを通して国内外の各地域の文化を調べた日々の記録『ハヤトウリ zine』、徳島阿波水軍の木造船技術が近代に家具づくりに転用された話を調べた紀行文『木造船のその後』（共に2023）、Kaguya PlanetにSF短編小説「透明な鳥の歌い方」を寄稿（2022）などがある。



迎 英里子 Eriko Mukai

屠畜や石油の採掘、水蒸気の循環など、世の中に存在する不可視の現象＝システムをモチーフとし、そのメカニズムを等身大の装置へ変換し、動作させることでシステムを実際に作動させるパフォーマンス作品を制作している。主な展覧会に、国際芸術祭「あいち2022」（2022、墨会館・小信中島公民館、愛知）、ARTS & ROUTES - あわいをたどる旅 - （2020、秋田県立近代美術館）など。

1990年兵庫県生まれ。2015年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻彫刻修了。

<https://mukaieriko.com/>



山田淳也 Junya Yamada

劇作や演出、踊りなど。ぱくという集まりで集団創作をしている。芸術文化観光専門職大学在学。既存の概念を再解釈、再利用する上演「 」により、既存のこぼれや秩序を引っ掻き回す。演劇の解体と再利用の先に、今まで気が付かなかったネットワークと上演を開拓することを目的に活動している。主な作品に戯曲「ばへやんマーケット」、複合パフォーマンス「Anima（とばりと母系）」、芸能「野良（演舞）」などがある。

twitter @fclclatena



Shows

01.

イ・ラン [ソウル (韓国) | オーディオ・パフォーマンス] 新作

Moshimoshi City :

^{イチ} | から不思議を生きてみる | 뚜벅뚜벅, 1도 모르는 신기속으로

Moshimoshi City—One Mystery At a Time

体験期間：9.30 (土)-10.22 (日)

受付日程：フェスティバル会期中の金・土・日・祝日の
11:00-18:00

受付☞ コミュニティカフェほっこり

会場☞ 東九条エリア各所

*ミーティングポイント 四条烏丸でも受付可。受付時間は営業時間に準じる。

*受付で渡される地図を手に、地図に指定された東九条エリアの各場所を訪ね、ご自身のスマートフォンで音声を再生して聞いていただくオーディオ・パフォーマンスです。

*受付をお済ませいただいた後は、いつでも好きなときにご体験いただけます。



©Lang Lee

見知らぬ土地に降り立った、非地球人のまなざし

コロナ禍の KYOTO EXPERIMENT 2021 AUTUMN 開催時に始動したプログラム「Moshimoshi City」。京都市内各所を舞台に、作家が架空のパフォーマンスを執筆し、観客は現地に赴いてそのテキストを「声」で聞く。想像力をもって、実在しない作品を脳内に立ち上げる実践だ。今年度の舞台は、東九条エリア。近年開発が進むこの地を、韓国を拠点にシンガーソングライターや文筆家として、社会への体感を等身大の声と言葉で表現するイ・ランが見つめる。同地域のコミュニティカフェで働くアーティストとオンラインでつなぎ、変わりゆく街を再発見しながら、他者が地域へ溶け込むことを思考するプロセスは、私たちに何を示すだろうか。

観客は地球外から来た生物の目線に立ち、土地に生きる人間たちの自然な振る舞い方を、日韓英3言語のテキストを手がかりに模索することになる。

イ・ラン Lang Lee

マルチ・アーティスト。1986年韓国ソウル生まれ。2012年にファースト・アルバム「ヨンヨンスン」を、2016年に第14回韓国大衆音楽賞最優秀フォーク楽曲賞を受賞したセカンド・アルバム「神様ごっこ」をリリースして大きな注目を浴びる。2021年にはダイナミックなサウンドと新しいヴォイスングを組み合わせたサード・アルバム「オオカミが現れた」をリリース。第31回ソウル歌謡大賞で「今年の発見賞」を受賞、さらに第19回韓国大衆音楽賞では「最優秀フォーク・アルバム賞」と「今年のアルバム賞」の2冠を獲得するなど絶賛を浴びた。また、作家/エッセイスト/イラストレーターとしても活躍し、エッセイ集『悲しくてかっこいい人』や『話し足りなかった日』、コミック『私が30代になった』、短編小説集『アヒル命名会議』、そして漫画家のいがらしみきおとの往復書簡集『何卒よろしくお願いたします』を本邦でも上梓。その真摯で嘘のない言葉やフレンドリーな姿勢=思考が共感と呼んでいる。



©melmel chung

02.

 ウィチャヤ・アートマート / For What Theatre [バンコク (タイ) | 演劇] 新作

ジャグル&ハイド (演出家を探すんだかわからない7つのモノたち)

Juggle & Hide (Seven Whatchamacallits in Search of a Director)

9.30 (土) 14:00 ★

10.1 (日) 13:00 / 17:00

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場☞ 京都芸術センター 講堂

上演時間☞ 70分 (予定)

*開演後は途中入場不可。12歳以上推奨。
一部暴力的な映像が含まれますので予めご了承ください。



©Rueangrith Suntasuk

メタファーに秘匿された、小道具たちのアイデンティティ

政治と個の生い立ち、表現との関わりを問うタイ演劇界の最注目演出家、ウィチャヤ・アートマートが、KYOTO EXPERIMENT 2021 SPRING に引き続き2度目の登場。サウンドデザインに荒木優光、ドラマトウルクに塚原悠也を迎えた国際共同制作作品として今回、新作を上演する。

アートマートはこれまでの作品のなかで、政治的なメッセージの検閲を回避するメタファーとして、さまざまな小道具を舞台上げてきた。しかし、それは小道具がもつ“物”としてのアイデンティティを、演劇表現を通して抑圧してきたことにはならないか？ 今作に俳優は出演せず、出演するのは、ある日の日付、額縁、歌、てるてる坊主、木、ピザ、扇風機などの小道具たち。アートマート本人は、各作品を生み出した政治的出来事や各作品における小道具たちの役割をたどりながら、自らの独裁的な振る舞いを省みる。アートマートは、小道具たちに意味を押し付けてきたことを考え、それらに「応答」する余地を与える。遊び心がありながら転覆的な演出は、タイ国家のみならず、知らず知らずのうちに大きな権威構造に飲み込まれる自己・他者のありよう、そして過酷で不条理な状況を問い、乗り越える問題提起の方法へのアプローチを示唆するだろう。

ウィチャヤ・アートマート Wichaya Artamat

演出家・For What Theatre 共同設立メンバー。1985年、タイ、バンコク生まれ。パフォーマンスに長らく魅了され、タマサート大学映画専攻を卒業後、Bangkok Theatre Festival in 2008 のプロジェクトコーディネーターとして劇場で働き始める。2009年には New Theatre Society に加わり、舞台芸術に対するさまざまな実験的・革新的形式のアプローチで注目される演出家となった。「東南アジア現代演劇界の最も有望な作家の一人」として称賛を集めている。社会が特定の月日を通して歴史をどのように記憶するのか、またいかに忘れてしまうかを探究することに強い関心を持っている。2014年に For What Theatre を共同設立し、Sudvisai Club、Collective Thai Scripts のメンバーでもある。代表作『父の歌 (5月の3日間)』がクンステン・フェスティバル・デザール 2019 でヨーロッパプレミア公演を迎えて以来、ヨーロッパ、アジア、その他の地域で広範なツアー活動や創作活動を続けている。



©Bea Borgers

03.

チェルフィツチュ [東京(日本) | 演劇] 新作

宇宙船イン・ビトゥーン号の窓

The Window of Spaceship 'In-Between'


9.30 (土) 18:00


10.1 (日) 13:00 / 18:00

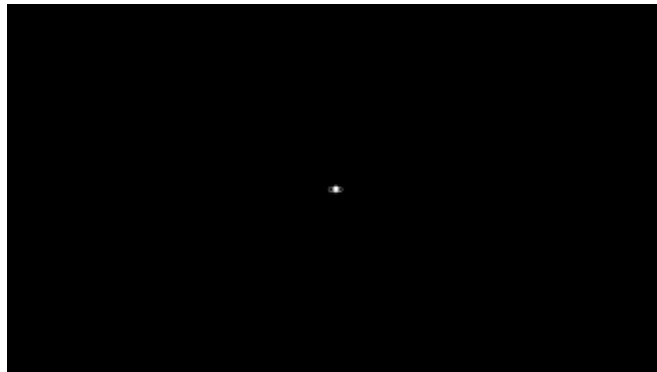
10.2 (月) 14:00 / 19:00

10.3 (火) 14:00 ★ / 19:00

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場  ロームシアター京都 ノースホール

上演時間  90分 (予定)



©Jujiro Maki / Masanao Hirayama

いくつものリアリティが交差する、まだ見ぬSF演劇

舞台はある国が消滅したあとの世界。文化を残すというミッションを掲げ、宇宙船イン・ビトゥーン号に、4人の乗組員と1体のアンドロイドが乗り込んだ。銀河を漂う船内では、それぞれの思い出を振り返る対話が“ある言語”で繰り広げられる――。

チェルフィツチュ主宰の岡田利規は、日本語を母語としない俳優が、発音や文法が「正しくない」という理由で、演技力を評価されない日本演劇のありように着目する。2021年には、演劇における日本語の可能性をひらくことを目指し、ノン・ネイティブ日本語話者との協働プロジェクトを始動。本作はその一環として行われたワークショップやトークイベント、オーディションを経て選出した俳優とともにつくり上げられた。

言語の定義とは？ 文化や社会、政治と結びつく言語の純粋性は可能か？ 多彩な背景をもつ俳優が日本語で演じる姿に、私たちは自問するだろう。チェルフィツチュ最新作の関西初上演をお見逃しなく。

チェルフィツチュ [chelfitsch](http://chelfitsch.com)

岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーとして1997年に設立。2007年クンステン・フェスティバル・デザール(ブリュッセル、ベルギー)にて『三月の5日間』を上演、初めての国外進出を果たす。以降、アジア、欧州、北米にわたる90都市以上で上演。フェスティバル・ドートンヌ・パリ(フランス)、ウィーン芸術週間(オーストリア)など世界有数のフェスティバル・劇場の委嘱および国際共同製作による創作も多数。KYOTO EXPERIMENT 2019では、美術家の金氏徹平をセノグラフィーに迎え、「人間中心主義からの逸脱」をテーマに「モノと人」との関係問い直した『消しゴム山』を初演。2023年5月にはウィーン芸術週間(オーストリア)にて、引き続き「人間中心主義からの逸脱」を描く新作音楽劇『リビングルームのメタモルフォーシス』を作曲家の藤倉大との協働により制作、世界初演を迎えた。

チェルフィツチュ



©Kikuko Usuyama

04.

アリス・リボル／Cia. REC [リオデジャネイロ(ブラジル) | ダンス] 日本初演

Lavagem (洗淨)

10.6 (金) 19:00 ★

10.7 (土) 14:00

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場☎ ロームシアター京都 ノースホール

上演時間☎ 60分

*開演後は途中入場不可。12歳以上推奨。



©Christopher Mavric

見えざる分断を問う、遊びに富んだ身体のムーブメント

バケツや水、石鹸の泡など日常の道具を使った、6人のパフォーマーによるダンス。個々の身体はアクロバティックに重なり合い、互いにしがみつきバランスをとる。その動作を、観客は協働や相互扶助、関係性のなかで生じるフラストレーションなどの表象としてとらえていく。

「Lavagem」は、ポルトガル語で「洗淨」を指し、また「マネーロンダリング」や「洗脳」を意味する表現にも用いられる言葉だ。国の歴史下で維持される性差別や人種差別、反社会的な力に追い詰められるアイデンティティ。またコロナ禍で世界的に顕著になった、エッセンシャルワークの従事者とその恩恵を受ける人々とのヒエラルキー。本作は「洗淨」の対象となるべきものとは何か？と、見えざる分断を問いかける。

自身の地域やルーツを掘り下げ、政治的・社会的なメッセージを独自の身体表現に転換させるアリス・リボル。リオデジャネイロのスラム街・ファヴェーラの若者たちと結成したグループ、Cia. RECの最新作であり、日本初となる舞台に注目してほしい。

アリス・リボル Alice Ripoll

振付家。リオデジャネイロ生まれ・在住。当初は心理学を学んでいたが、身体の可能性に対する好奇心から、また動きについて探求したいという欲求から、後にダンスに重点を移した。リオデジャネイロで知られる振付・身体機能訓練センターである Escola Angel Vianna を卒業後、振付家として活動を始める。彼女の作品では、ダンサー達が自分の経験や内なる記憶を表現できるような場を提供するリサーチを通して、コンテンポラリーダンスとブラジルのアーバングダンスを融合させる。リボルは、REC と SUAVE という2つのコレクティブを主宰。Festival Panorama (リオデジャネイロ)をはじめとするブラジルのフェスティバルや、クンステン・フェスティバル・デザール、ポンピドゥー・センター、ウィーン芸術週間など世界各地のフェスティバルや劇場で作品を上演している。



©Renato Mangolin

05.

バック・トゥ・バック・シアター [ジーロング(オーストラリア) | 演劇] 日本初演


影の獲物になる狩人


The Shadow Whose Prey the Hunter Becomes

10.7 (土) 15:30

10.8 (日) 15:30 ★

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場  ロームシアター京都 サウスホール

上演時間  60分

*12歳以上推奨。



©Jeff Busby

“当事者” はあなたであり、私でもある

知的障害のある俳優を中心に、インクルーシブシアターの先駆けとして30年以上にわたり活動するバック・トゥ・バック・シアター。世界で反響を呼ぶ同カンパニーを、関西で初紹介する。

舞台はとある市民集会。障害のある活動家が3人、人工知能の危険性に警鐘を鳴らすべく席についている。「このミーティングは、礼節を持って穏やかに進めなければいけません。みんなが互いを尊重しなければいけません。個人攻撃はしないこと。場を和やかに保ちましょう」。そして、活動家たちは語り出す。「大丈夫?」「何を言うんだったか思い出せないの」「こんな感じじゃない?——『私たちは、障害がある人たちの集まりです……』」「『抑圧や理不尽と闘っています』」「頭が真っ白だわ」コミカルにもシニカルにもとれる、障害のある当事者のやりとりは、自らの偏見・偏向こそが世界を救うための最大の障害になるという現実、そして、他者へのリアリティの欠如を浮き彫りにする。観客が突きつけられるのは、「正しさとは何か?」という問いかもしれない。

* 山口にて巡演公演あり

日程：10.14 (土) -10.15 (日)

会場：山口情報芸術センター [YCAM] スタジオ A

バック・トゥ・バック・シアター Back to Back Theatre

バック・トゥ・バック・シアターは、障害のある俳優たちのユニークなアンサンブルと、その思考や経験から新たな形のコンテンポラリー・パフォーマンスを生み出し、すべての人に通じる社会的・政治的問題を提起している。オーストラリアで最も世界的に知られ、高い評価を受けている現代演劇カンパニーのひとつであり、地方都市であるジーロングを拠点に活動している。1999年以来、アーティストック・ディレクターのブルース・グラッドウィンのもと、広く社会的・文化的な対話についての俳優陣自身の解釈に重点を置きながら、独自の芸術表現を育ててきた。また、プロフェッショナルな活動だけでなく、世界各地のコミュニティと積極的なコラボレーションも展開しており、障害のある人々のソーシャルインクルージョンの向上や優れた芸術性に焦点を当てている。



©Kira Kynd

06.

山内祥太&マキ・ウエダ [相模原/石垣島(日本) | パフォーマンス] 新作

汗と油のチーズのように酸っぱいジュース


Sweaty-oily Sour-cheesy Juice

10.7 (土) 18:00

10.8 (日) 13:00 / 18:00

10.9 (月・祝) 15:00 ★

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場  THEATRE E9 KYOTO上演時間  60-90分 (予定)

* 上演中、演出の一部として会場内に匂いを発生させます。
 予めご了承ください。



©Shota Yamauchi

愛の“匂い”と身体が交じり合うとき

ステージ上には、ガラス製の蒸留器と大型水槽が組み合わさった装置がある。それは、人間の体臭を抽出する蒸留機だ。登場人物は、愛する人や対象の“匂い”を追い求め、さまざまな香料と液体を混ぜ合わせる。すると水槽には“匂いのジュース”が注がれていく。立ち込める、えも言われぬ匂い。それに身体で反応する人物は、ジュースに身を浸し、匂いそのものになろうと試みる――。

デジタル技術と身体表現を掛け合わせる次世代メディアアーティスト、山内祥太の新作は自身初の舞台作品だ。2021年の作品《舞姫》で、人間と仮想空間上のゴリラとの擬似的なセックスを表現し、人がもつ動物的な感覚としての触覚を模索した山内。その興味は、感情や記憶と結びつく“匂い”に派生し、嗅覚アーティストであるマキ・ウエダとの協働で本作へと結実する。4公演の登場人物はそれぞれ異なり、個々にまつわる愛のエピソードを、匂いに没入することで体現する。その光景は観客に、人間の理性と動物性とが、嗅覚を通して複雑に混在する瞬間を見せてくれるだろう。

山内祥太 Shota Yamauchi

1992年岐阜県生まれ、神奈川県在住。インターネットが普及した1995年以降のリアリティと共に育った世代として、自己と世界の関係性や、自分の認識する世界と現実の間にある裂け目といったものを、さまざまな方法で明らかにしようと試みてきた。映像、彫刻、インスタレーション、パフォーマンスなど表現メディアは多様で、クリエイション、クロマキー、3DCG、3D印刷、VR、モーションキャプチャなどの技術も自由自在に用いる。テクノロジーによる新しさの追求だけでなく、身体性の生々しさや人間らしい感情、矛盾する気持ちや状況といった複雑さを表現しようとしていることも、作品の特徴とされる。



マキ・ウエダ Maki Ueda

嗅覚アーティスト。1974年、東京生まれ。2000年よりオランダ在住。現在は、石垣島に拠点を置き、アトリエ・マキ・ウエダを構える。慶應義塾大学環境情報学部にて、藤幡正樹氏に師事し、メディア・アートを学ぶ。2000年文化庁派遣若手芸術家として、2007年ポーラ財団派遣若手芸術家として、オランダ、ベルギーに滞在。2009年よりオランダ王立美術学校&音楽院の学部間学科 Art Science や、ロッテルダム美大ウィレム・デ・コーニングアカデミー、岐阜県立情報科学芸術大学院大学にて教鞭をとる。世界的な嗅覚アートの殿堂、アート・アンド・オルファクション・アワード サダキチ・カテゴリーに現在、5年連続ノミネートされており、2022年には最優秀賞を受賞している。



07.

 中間アヤカ [神戸(日本) | ダンス] 新作

踊場伝説

The Odoriba Legend

10.9(月・祝)-10.14(土) 11:00-20:00

10.15(日) 11:00-18:00

* 休演日: 10.12(木)

- * 1日を通してパフォーマンスやイベントが展開します。
- ・初日には「劇場」の柿落としとなる演目を上演。
- ・全日程を通してコラボレーターとともに公開リハーサルが行われ、最終日には新作ソロダンスとして発表予定。
- ・毎晩「劇場」のレパートリー作品として中間アヤカによるソロパフォーマンスも上演。
- ・リサーチ内容の展示など、会期を通してさまざまなプログラムを実施予定。

各日の詳細スケジュール/プログラムはウェブサイトをご覧ください。



会場 養正市営住宅 6 棟跡

* 荒天などの影響により、公演内容を変更または中止する場合があります。

現代における「伝説」は、どのように生まれるか？

関西コンテンポラリーダンス界において生み出され、語り継がれてきた、ダンスにまつわる数々の「伝説」=不確かな異常体験。近年、国際的なフェスティバルでの活躍もめざましい中間アヤカが手がける本作は、史実には残らず口伝でしか掬い取れない、そうした現象の一端を起点としている。

クリエイションは、ある種の社会的アプローチのもと進められている。関西ダンス史における伝説を知る人々数名への聞き取り、当時の社会情勢や踊りに関する伝説のリサーチ、年表等の制作を通じて「伝説」の構造をひもとき、現象のアーカイブ化、展示やパフォーマンスへと再構築していくというものだ。今回、京都市内の空き地に仮設される「劇場」がその発表の場となる。

ある地域、あるコミュニティにおいて、空間や時間さえも超えて人々に想い起こされる「ダンス」はどのように可能か。大きな試みの初動を、まずは目撃してほしい。

中間アヤカ Ayaka Nakama

ダンサー。1992年別府生まれ、神戸在住。Rambert School of Ballet and Contemporary Dance (ロンドン) で学んだ後、文化庁・NPO法人DANCE BOX主催「国内ダンス留学@神戸」1期に奨学生として参加。これまでに黒沢美香、木村玲奈、contact Gonzo、チェルフィッチュ等の作品に出演。誰かや何かに振り付けられる身体の有り様にこだわりを持ち、ダンスとしか呼ぶことのできない現象を追い求めながら、近年は自身の作品創作にも積極的に取り組んでいる。ArtTheater dB Kobeにて初演した中間アヤカ&コレオグラフィ『フリーウェイ・ダンス』(2019)は、TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2020、KYOTO EXPERIMENT 2021 SPRING、クンステン・フェスティバル・デザール(2021)、ボンビドゥ・センター(2021)等で上演を重ねる。2018~2020年度DANCE BOXアソシエイト・アーティスト。第16回(令和4年度)神戸長田文化奨励賞受賞。2022-23年度セゾン文化財団セゾン・フェローI。



©Bea Borgers

08.

 ルース・チャイルズ&ルシンダ・チャイルズ [スイス/アメリカ | ダンス] 日本初演

ルシンダ・チャイルズ 1970年代 初期作品集：



Calico Mingling, Katema, Reclining Rondo, Particular Reel

Lucinda Childs 1970s Early Works:
Calico Mingling, Katema, Reclining Rondo, Particular Reel

10.13 (金) 20:15

10.14 (土) 20:15

10.15 (日) 20:15

会場  京都市京セラ美術館 中央ホール上演時間  65分

*開演後は途中入場不可。12歳以上推奨。



©Mehdi Benkler

歴史を理解する最善の方法は、起こったことを踊ること

ポストモダンダンスの源流を、伝説となった世代から現代へ継承することはできるのか？

KYOTO EXPERIMENT 2022 で始動した、ヴァン クリーフ & アーベル「Dance Reflections」とのコラボレーションプロジェクト。第2弾はポストモダンダンスの巨匠振付家、ルシンダ・チャイルズの作品を現代に蘇らせる、姪で新進気鋭の振付家、ルース・チャイルズを招聘する。

2015年、ルシンダは1960年代の代表的なソロ3作品をルースに託した。そして、その公演で成功を収めた2年後、ルースは引き続き1970年代に創作された4つのパフォーマンスを原作とし、叔母の振付に新たな命を吹き込む。これらはルシンダが好んで採用した創作プロセスにおける要素——「スコアの使用」「空間における軌跡」「音楽を伴わないリズム」を体現するものだ。このルシンダ4作品は1970年代以降さほど上演されず、そのラディカリズムは次代に享受されてこなかった。継承を試みたルースは綴る。「私自身とほかのダンサーたちにとって、理解するための最善の方法は、起こったことを踊ること。観客にとっては、起こったことを見ること、そして聞くことです。」

ルース・チャイルズ Ruth Childs

イギリス、アメリカのダンサー・振付家。1984年ロンドン生まれ。米国で育ち、ダンスと音楽を学ぶ。2003年ジュネーヴに移住し、Ballet Junior de Genèveでダンスを学んだ。その後、Foofwa d'Imobilité、La Ribot、Gilles Jobin、Massimo Furlan、Marco Berrettini、Yasmine Hugonnetらさまざまな振付家や演出家と仕事をするようになる。2014年に自身のカンパニー Scarlett's を設立し、ダンスやパフォーマンス作品のほか、音楽作品も制作している。初の舞台作品『The Goldfish and the Inner Tube』(2018)は、Stéphane Vecchione との共同制作による。その後、ソロ作品として『fantasia』(2019)、『Blast!』(2022)を発表した。2021年より彫刻家 Cécile Bouffard とコラボレーションし、進化するパフォーマンスプロジェクト『Delicate People』を展開している。また、2015年から、叔母であるアメリカの振付家ルシンダ・チャイルズの初期作品をリクリエーションし、リバイバルするプロジェクトにも取り組んでいる。現在、Arsenic (ローザンヌ) のレジデントアーティストの1人であり、CCN2-Centre chorégraphique national de Grenoble のアソシエイトアーティスト (2023-2024) である。



©Marie Magnin

09.

 デイナ・ミシェル [モントリオール (カナダ) | パフォーマンス] 新作

MIKE

10.20 (金) 18:00 ★

10.21 (土) 18:00

10.22 (日) 16:00

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場☎ 京都芸術センター 講堂

上演時間☎ 180 分



©Carla Schleiffer

*上演中の入退場自由。12歳以下は保護者の同伴が必要。

人生を「仕事」に費やすなかで、「自分」はどう存在し得るか

彫刻、ヒップホップ、映像表現、心理学などから影響を受け、独自のダンス言語によってさまざまな潜在的な社会慣習を打ち破る振付家、デイナ・ミシェル。新作にして日本初となるライブパフォーマンスは、誰しもが人生の大半を費やす「仕事」と個のアイデンティティ——ワーク・ライフ・バランスをテーマとする。膨大なタスクは本来の「自分」を追いやり、個は「仕事をする私」としてあらざるを得ない。では、人生のなかに「自分」はどれだけ存在するのだろうか？

2022年には城崎・京都で滞在制作を行い、多様な現場で仕事に従事する人々の姿、個々の信念や精神性がどのように構築されるのかを考察。そのプロセスを経て、自身の身体と「仕事」にまつわるオブジェクトを用い、即興的なパフォーマンスとして結実するダンス作品は、観客の目にいかに映るか。客席なし・出入り自由の空間で、3時間にわたり展開される身体表現の迫力を体感してほしい。

デイナ・ミシェル Dana Michel

振付家・ライブアーティスト。1976年カナダ、オタワ生まれ。モントリオール拠点。彼女の作品の題材は、自身の経験であり、即興、ヒップホップ、ダブ、コメディ、映画、彫刻、社会批評など、さまざまな要素によってその経験を拡張しながら、創作を行っている。20代後半で、コンコーディア大学のBFAプログラムにてコンテンポラリーダンスを学ぶ。それ以前は、マーケティングエグゼクティブ、競技ランナー、フットボール選手としても活躍した。2014年、ウィーンのダンスフェスティバル・インパルス・タンツにて、Prix Jardin d'Europeを受賞。同年NYタイムズ紙にて、その年の注目すべき振付家の一人として紹介される。2017年、ヴェネツィア・ビエンナーレのInnovation in Dance部門で銀獅子賞受賞。2018年にはNational Arts Centre(カナダ)の最初のレジデント・アーティストとなった。2019年、ANTI Festival International Prize for Live Art(クオビオ、フィンランド)を受賞。2023年、カナダにおけるダンスへの顕著な貢献が認められ、カナダ・カウンシルのジャクリーン・ルミュー賞を受賞。



©Richmond Lam

10.

マリアーノ・ペンソッティ / Grupo Marea [ブエノスアイレス (アルゼンチン) | 演劇] 日本初演

LOS AÑOS (歳月)

LOS AÑOS (THE YEARS)

10.21 (土) 14:00 ★

10.22 (日) 13:00

★ポスト・パフォーマンス・トーク

会場 京都芸術劇場 春秋座

上演時間 105 分

* 未就学児入場不可。



©Isabel Machado Rios

理想と現実、未来と現在は、常に隣り合わせにある

現在とその30年前。2つの時間軸がひとつの舞台の上で映画の画面割りのように現れ、同時に進行していく。一方は2020年。主人公のマヌエルは、貧困地区の少年をとらえたドキュメンタリー映画で脚光を浴び、そのキャリアを飛躍させていく。もう一方は2050年。長く暮らした海外からブエノスアイレスへと戻ってきたマヌエル。そこで、過去にうまくいかなかった人々や場所との関係を再構築しようと試みるのだが……。

本作に描かれるのは、おかしく、そして悲しいひとりのアーティストの人生だ。あるいは、観客席に座る私たちの世界に引き寄せるとしたら、私(たち)が「こうなりたい」と思う自分と、実際に私(たち)がどうなったかの間にある“致命的な違い”を描いたとも言えるだろう。

大掛かりなセットや緻密な会話構成で、演劇の構造を幻想的なフィクションへと昇華するマリアーノ・ペンソッティ。世界30都市以上で公演を行ってきた屈指の劇作家・演出家が、日本で初の劇場公演を行う。その作品世界をじっくりと堪能したい。

マリアーノ・ペンソッティ Mariano Pensotti

アルゼンチンの作家・演出家。1973年生まれ。ブエノスアイレス、スペイン、イタリアでビジュアルアーツと演劇を学ぶ。2005年に、舞台美術家の Mariana Tirantte、音楽家の Diego Vainer、プロデューサーの Florencia Wasser と共同でカンパニー Grupo Marea を立ち上げた。ペンソッティ自身がテキストを執筆・劇場での上演を想定し、俳優たちとの共同作業をベースにした演劇作品と、公共空間において虚構と現実を明確に対比させることを意図した、サイトスペシフィックに展開するパフォーマンス作品を並行して発表している。ペンソッティは過去12年にわたり劇作家・演出家として15以上のパフォーマンス作品を手がけた。近年の作品に、『Los Años』(ルール、2021) 『El Público』(アテネ、2019) 『Diamante』(ウィーン、2019) 『Arde brillante en los bosques de la noche』(ベルリン、2017) がある。ペンソッティは世界的に最も名高い演出家の1人であり、世界の30以上の都市で作品を発表している。



©Bea Borgers

11.

サムソン・ヤン [香港 | 展示]

The World Falls Apart Into Facts

9.30 (土) - 10.22 (日) 10:00-20:00

* 9.30 (土) は 22:00 まで

* 9.30 (土) 12:30 より、アーティストによるギャラリートークあり。

会場 京都芸術センター ギャラリー南



©Lily Yiyi Chan

近寄ってみれば、だれもが複雑に混ざり合っている

香港を拠点に活躍し、2017年のヴェネツィア・ビエンナーレ香港代表を務めたサウンド・アーティスト、サムソン・ヤン。本作では、中国を代表する民謡「茉莉花 (茉莉花)」の系譜を辿る。この曲が清朝の時代に大英帝国を経てヨーロッパに伝わり、そこでアレンジされたものが中国に「再輸入」されたという経緯を、文化と政治の両面からリサーチし、映像とオブジェクトのインスタレーションとして制作。また、日本における唐楽 (中国から朝鮮・日本に伝来した唐代の音楽で、雅楽の分類のひとつ) など、国と国を超えて作用する文化的系譜に関わるリサーチも、作品には含まれる。今回、ヤンは京都での滞在を通して思索を深め、本作を再構成している。

今日、私たちが「日本的」ととらえる文化的系譜の多くは、歴史を振り返れば他国の文化を転用したものや、その影響下にあるものだ。国と文化を結びつけて語るとき、しばしば文化の純粋性や真正性といった概念を入れ込もうとする力が働くが、ヤンはそこにユーモアと疑問符をぶち込んでくれる。

サムソン・ヤン Samson Young

1979年香港生まれ。サウンド、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど、様々な分野を横断し活動するアーティスト。シドニー大学で音楽、哲学、ジェンダー研究を学んだ後、2007年に香港大学でMPhilを、2013年にプリンストン大学で作曲のPhDを取得。ヤンの作品においては、音とその文化的政治性が中心にあり、さらにアイデンティティ、移住、国境といった主題が探究されている。制作の過程では、厳格で歴史に依拠したりリサーチに深く取り組んでいるが、ヤンの作品はしばしば遊び心とユーモアに溢れたものでもある。これまでに、グッゲンハイム美術館 (ニューヨーク)、国立国際美術館 (大阪)、アルス・エレクトロニカ (リンツ)、ドクメンタ 14: documenta radioなどで作品を発表。最近のソロプロジェクトには、Talbot Rice Gallery (エディンバラ)、森美術館 (東京) などがある。2017年、第57回ヴェネツィア・ビエンナーレでは香港代表としてソロプロジェクト『Songs for Disaster Relief』を展開した。BMW Art Journey Award、アルス・エレクトロニカ、デジタルミュージック&サウンドアート部門で準優勝、2020年には第1回 Uli Sigg Prizeを受賞。ヤンはCMHKの創設者であり、アーティストコレクティブ Tomato Greyのメンバーでもある。



©Fritz Beck

📖 Super Knowledge for the Future [SKF]

📖 プレイベント ウィチャヤ・アートマート

上映会&トーク

『父の歌 (5月の3日間)』上映会&トーク

9.24 (日) 15:00-17:30

会場：The side

ゲスト：ウィチャヤ・アートマート、ササピン・シリワーニット、
片岡樹（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

言語：日本語、タイ語（逐次通訳あり）

料金：500円（1ドリンク付き）



©Wichaya Artamat

タイ演劇界の最注目作家であるウィチャヤ・アートマート。KYOTO EXPERIMENT 2023 での世界初演となる新作発表を控え、2021 SPRING でオンライン配信した作品の上映会とトークを開催する。本作は、ある姉弟の亡くなった父をめぐる会話から、個人と政治の関係性を描き大きな反響を得た。配信用に制作された映像を通してアートマート作品の魅力を経験し、ゲストやアーティストの言葉に耳を傾けてみよう。

📖 伝承でたどる妖怪まちあるき 平安神宮～真如堂～相国寺

まちあるきツアー

10.1 (日) 10:00-12:00 (予定)

集合場所：ミーティングポイント ローム・スクエア（解散場所：相国寺付近（予定））

案内人：河野隼也（妖怪文化研究家、妖怪造形家）

料金：1,000円



河野隼也

いにしえから語り継がれる不可思議な存在、「妖怪」。平安京の時代には京都にも鬼や物の怪（もののけ）など多くの妖怪が出没したと言われる。しかし、こうした伝承の存在は、さまざまな言い伝えが混ざり合うことで、今に伝わる姿に変容したのではないだろうか。今回のまちあるきでは、「化ける」をテーマに伝承の地をめぐる。化けるといえば、狐。平安神宮から出発し、「九尾の狐」にまつわる石の置かれた真如堂を経て相国寺へ。歩みを進めるなかで、あなたに妖怪はどう映るか？

📖 アリス・リポル 特別トーク

トーク

10.7 (土) 16:30-18:00

会場：ロームシアター京都 ノースホール ロビー

ゲスト：アリス・リポル

聞き手：KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

対象：アーティストとして活動している方

言語：英語（日本語逐次通訳あり）



©Renato Mangolin

今回、『LAVAGEM (洗淨)』を日本で初演するアリス・リポル。ブラジルはリオデジャネイロを拠点とし、スラム街・ファヴェーラの若者たちとともに活動するリポルにとって、コミュニティとの関係性は創作の要と言える。このトークでは、アーティストとして活動する人に向け、リポルがこれまで発表してきた作品やその創作プロセスを解説し、コミュニティと関わりながら作品をつくることについて対話を行う。

📍 バック・トゥ・バック・シアター ワークショップ ワークショップ
ブリトニーの無意識

10.9 (月・祝) 11:00-12:30

会場：ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川 ホール

ファシリテーター：バック・トゥ・バック・シアター芸術監督、
アンサンブル・メンバー

対象：10歳以上の方 言語：英語（日本語逐次通訳あり）

料金：1,000円



©Kira Kynd

『影の獲物になる狩人』の日本初演後、バック・トゥ・バック・シアターがその創作プロセスを紹介するワークショップを開催。普段どのように共同創作に取り組んでいるか、知ることのできる機会となる。アーティストから、同カンパニーの活動に興味のある人まで、障害のある・なしにかかわらず、すべての人にひらかれる本ワークショップは、インクルーシブであること、参加者の間になんの違いも障壁もないことを体感させるだろう。

タイトルの「ブリトニー」は、ポップスターのブリトニー・スピアーズのこと。即興のワークを通して、セレブリティへの無意識の憧れやオブセッションについて探求する。

共催：ゲーテ・インスティトゥート大阪・京都

📍 インキュベーション キョウト ライブラリー
「シアター？ライブラリー？」

10.12 (木) -10.16 (月) 10:00-20:00

会場：シアター？ライブラリー？（ロームシアター京都 ノースホール）

構成・演出：福井裕孝 空間設計：REUNION STUDIO（木村慎弥、安川雄基、石田知弘）

料金：入室料 | 日パスポート 100円、こども（18歳以下）無料、

5日間パスポート 500円

ロームシアター京都 ノースホールに、シアターとライブラリーを融合させた期間限定の“ライブラリー”が登場する。本を読む、パフォーマンスを観る、トークに参加するなど、過ごし方はさまざま。同空間で開催する「Super Knowledge for the Future [SKF]」プログラムもあるため、その他のイベント内容含めスケジュールなどの詳細を、ロームシアター京都のウェブサイトにてチェックしてほしい。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、KYOTO EXPERIMENT、京都市、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業（アートキャラバン2）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会
 事業名：JAPAN LIVE YELL project

📍 シアター？ライブラリー？関連企画① ワークショップ
アイデンティティの「まぜまぜ」は可能か？

10.12 (木) 18:30-20:30

会場：シアター？ライブラリー？（ロームシアター京都 ノースホール）

ファシリテーター：吉岡洋（美学者）

対象：本ワークショップで扱うトピックについて、事前に用意するテキスト

あるいは動画に関心を持ち、自分から問いを用意できる方

言語：日本語

料金：無料（シアター？ライブラリー？への入室は有料）



吉岡洋

アイデンティティは自分を取り戻す手がかりになったり、人間や社会について深く考えるきっかけになる反面、利害のために誘導されたり、政治的に利用されたりもする。舞台芸術において、パフォーマーが生身の自分とは違う人間を演じるのは当たり前のことだったが、近年そうしたことを「文化的盗用」として非難する動きもある。いわば、他人のアイデンティティを演じてはいけない、「まぜまぜ」してはいけない、ということである。こうした問題について、どのように考えたらいいのか。事例も参照しながらみんなで話し合ってみよう。

シアター？ライブラリー？関連企画②

トーク

ことばの混交の果てに——『クレオール主義』30年

10.14 (土) 15:30-17:00

会場：シアター？ライブラリー？（ロームシアター京都 ノースホール）

ゲスト：今福龍太（文化人類学者・批評家）

料金：無料（シアター？ライブラリー？への入室は有料）

今福龍太著『クレオール主義』刊行から30年余。異なる言語や文化形態が移動・交差・混交するなかで、ハイブリッドな価値観や表現が社会に与えるインパクトについて描いた先駆的な書物である。一方でこの30年、画一化された情報が共有される速度は加速し、その真偽が政治や社会状況に多大な影響を与える時代に私たちは生きている。「世界の政治社会の趨勢は反-混合、反-混血へと逆行している」とする著者の現在の視座に立ち、『クレオール主義』から30年後の現代社会についての新たな見通しを映像や音を交えて縦横に語るトークイベント。



今福龍太

ルース・チャイルズ ワークショップ

ワークショップ

10.16 (月) 19:00-20:30

会場：京都芸術センター フリースペース

ファシリテーター：ルース・チャイルズ

対象：ダンサー、パフォーマーとしてトレーニングしている方

言語：英語（日本語逐次通訳あり）

料金：1,000円



©Mehdi Benkler

ポストモダンダンスの巨匠振付家であるルシング・チャイルズが、ジャドソン・ダンス・シアターでの活動時に行っていた振付リサーチに基づくワークショップ。これを、姪のルース・チャイルズがファシリテーターとなって実施する。1970年代のルシングのダンスにみられる、3つの基本的な要素——「スコアの使用」「空間における軌跡」「音楽を伴わないリズム」。このワークショップでは、これらの要素を体感するべく、今回上演される作品のうち『Calico Mingling』（1973年）と『Katema』（1978年）のオリジナル・スコアを共有。実際に身体を動かし、ルシングの作品をたどる試みである。

芸術文化とファンレイジング—観客・サポーターとの未知の関係性！？

トーク

10.17 (火) 19:00-20:30

会場：ミーティングポイント 四條烏丸

出演：大澤寅雄（合同会社文化コモンズ研究所代表）、砂川敬（京都市文化芸術政策監）、富樫佳織（京都精華大学 メディア表現学部 准教授）、KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター

モデレーター：山本麻友美（京都芸術センター副館長／京都市文化政策コーディネーター）

料金：無料



2021 AUTUMN ミーティングポイント
オスカー・ピーターズ「The Moving Mountain」
©Haruka Oka

文化政策やアート×ビジネス思考の専門家を迎えたトークイベント。KYOTO EXPERIMENT は近年、新型コロナウイルス感染症拡大や国際情勢の変化、京都市の行財政改革などの影響を受け、財政的に厳しい状況を抱えている。そのなかで、民間や企業からの支援・協賛も含めた運営のあり方を模索中だ。KYOTO EXPERIMENT に限らず、芸術文化の公共性とそれを支える構造はいま、大きな転換点を迎えているのではないだろうか。本トークでは、そんな状況をふまえて、アートと社会のこれからの「共創」について考えたい。

協力：京都市アート×ビジネス推進事業

メディアとしての染織—歴史・テクノロジー・アート

トーク



HOSOO GALLERY

10.21 (土) 11:00-12:30

会場：ミーティングポイント 四条烏丸

 出演：細尾真孝（株式会社細尾 代表取締役社長）、
井高久美子（インディペンデント・キュレーター）

料金：無料

1688年に京都・西陣で創業した細尾は、西陣織の歴史を受け継ぎ、きもの文化の伝統を守り続けるとともに、西陣織の技法を踏襲しつつ、独自の織物を制作している。土地の風土・歴史、時の社会・権力構造とも密接につながり発達してきた染織文化。細尾では、2019年にHOSOO GALLERYを開設。その歴史をふまえながら、現代のテクノロジーやアートなど多領域を横断した織物の研究開発や、HOSOO STUDIESと称したりサーチ活動について、細尾真孝とキュレーターの井高久美子が語る。

協力：HOSOO GALLERY

KEX ラジオ

ラジオ

コミュニティラジオ

日程：10.5 (木)、12 (木)、19 (木) 各日 12:30-13:30

DJ：渡邊裕史 (KYOTO EXPERIMENT)

Future Dictionary

日程：10.4 (水)、16 (月) 各日 19:00-19:30

出演 オフェリア・ジアダイ・ホァン（キュレーター、ドラマトゥルク、アーティスト [上海]）



©Takuya Matsumi

配信会場：ミーティングポイント 四条烏丸

ミーティングポイントから毎週配信するラジオプログラム。KYOTO EXPERIMENT スタッフ、渡邊裕史のDJによる「コミュニティラジオ」では、各作品の制作秘話から最新イベント情報までを紹介する。上海を拠点にするキュレーター、アーティスト、ドラマトゥルクのオフェリア・ジアダイ・ホァンと協働して配信する「Future Dictionary」では、世界の芸術関係者の共通言語である英語ではなく、英語以外の言語におけるさまざまなアートの概念と、それにつながるローカルな芸術の実践について考える。

視聴無料

* Instagram アカウントからライブ配信 @kyotoexperiment。その後、Spotify などでもアーカイブ配信あり。

批評プロジェクト 2023

公募

メンター：森山直人（演劇批評家）

応募締切：10.30 (月) 23:59

対象演目：バック・トゥ・バック・シアター『影の獲物になる狩人』

実験的舞台芸術の批評・評論を学ぶプロジェクト。参加要件は、対象演目の『影の獲物になる狩人』を鑑賞し、レビューを書いて応募すること。ここから選出された応募者（若干名）は演劇批評家の森山直人による個別指導を受け、内容をブラッシュアップすることができる。完成原稿はKYOTO EXPERIMENTのウェブサイトに掲載予定。芸術批評やライティングを学んでみたい人はぜひチャレンジを！



©Kira Kynd

☞ ミーティングポイント

「ミーティングポイント」は、フェスティバルの交流拠点&インフォメーションセンターです。今年は「ミーティングポイント 四条烏丸」と「ミーティングポイント ローム・スクエア」の2つの拠点が会期中にオープンします。スタッフによるプログラム案内やオリジナルグッズの販売をはじめ、四条烏丸のスペースでは、KYOTO EXPERIMENTの過去作品の映像上映やラジオ配信、チケット販売も行います。さらに、無料のトークイベントも開催予定です。もちろん入場無料。フェスティバルをより楽しむためのヒントを探しに、気軽にお立ち寄りください。

※最新情報はウェブサイトでご確認ください。

☞ ミーティングポイント 四条烏丸

〒600-8411 京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町637 第五長谷ビル B1F(地下鉄四条駅3番出口直結)

開場日時：フェスティバル会期中の木・金・土・日・祝日の12:00-19:00

※9.30(土)のみ12:00-18:00

※イベントがある日はオープン時間を延長することもあります。



ミーティングポイント 四条烏丸 イメージ図

☞ ミーティングポイント ローム・スクエア

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13 ロームシアター京都

開場日時：フェスティバル会期中の土・日・祝日の13:00-18:00

※イベントがある日はオープン時間を延長することもあります。



ミーティングポイント ローム・スクエア

☞ フリンジ「More Experiments」

フェスティバル開催期間中に京都で発表される作品を一挙に紹介するフリンジ「More Experiments」。演劇・ダンス・音楽・朗読・パフォーマンス・展示など、ジャンル不問の公募で集まった作品を紹介します！

*参加団体は8.1(火)にウェブサイトでお知らせします。

9.30(土) - 10.22(日)

会場：京都府内各所



☞ 感想シェアカフェ

観客が感想を語り合う場としての「感想シェアカフェ」を 2019 年度以来 4 年ぶりに開催します。

感想シェアカフェでは、自分が感じたことを言葉にして語ったり、作品とともに観劇した人の話にじっくりと耳を傾けたりすることで新たな気づきや違った視点、発見をシェア＝「分かち合う」ことを目的としています。Shows プログラムの公演終了後に開催し、集まった人たちと感想を話します。共通の作品を体験した人たちとの対話を通して、鑑賞者だからこそ見いだせる作品の価値を分かち合う時間をお楽しみください。



*詳細はウェブサイトでお知らせします。

☞ ブックフェア

9.30 (土) -10.22 (日)

会場：京都岡崎 蔦屋書店

参加アーティストの関連書籍や、フェスティバルのキーワード「まぜまぜ」をテーマに集めた KYOTO EXPERIMENT ブックフェアを「京都岡崎 蔦屋書店」で開催します。

ここでしか購入できない、KYOTO EXPERIMENT オリジナルグッズも販売します。よりフェスティバルを楽しむために、観劇前後にぜひお立ち寄りください。



☞ パートナーホテル

KYOTO EXPERIMENT とパートナーシップを結んでいるホテルです。会場からの交通の便もよく、観劇や京都観光を夜まで楽しんだ後は宿でゆっくり過ごせます。

ホテルに宿泊するお客様には、フェスティバルの Shows (上演プログラム) の「当日券 500 円 OFF クーポン」を提供します。

- ・ KAGANHOTEL (河岸ホテル)
- ・ THE REIGN HOTEL KYOTO (ザ・レインホテル京都)
- ・ node hotel (ノードホテル)
- ・ HOTEL ANTEROOM KYOTO (ホテルアンテルーム京都)
- ・ BnA Alter Museum
- ・ MAGASINN KYOTO (マガザンキョウト)



HOTEL ANTEROOM KYOTO

📖 関連プログラム

📖 舞台芸術プロデュース講座～演劇・ダンス編～

地域の舞台芸術のプロデュース／企画制作領域の専門人材の育成プログラム。

2023年10月～2024年1月 全9回（予定）

会場：ロームシアター京都 ほか



主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、KYOTO EXPERIMENT、NPO 法人京都舞台芸術協会、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市
 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業（地域の中核劇場・音楽堂等活性化）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

📖 インキュベーション キョウト

京都市を拠点とする文化芸術関係団体が協働し、地域の若年層が広い視点でこれからの舞台芸術を考え、志すきっかけとなるための人材育成プログラムを実施する。

2023年7月～2024年1月

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、KYOTO EXPERIMENT、京都市東山青少年活動センター、THEATRE E9 KYOTO（一般社団法人アーツシード京都）、京都市、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
 助成：文化庁文化芸術振興費補助金（統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業（アートキャラバン2）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

事業名：JAPAN LIVE YELL project

📖 提携プログラム

📖 京都学生演劇祭 2023

「今、京都で最もおもしろい舞台をつくる学生劇団はどこか」という問いに答えるべく始まった京都学生演劇祭は、現在まで数々の学生劇団が出演し、今年で13年目を迎える。

KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクターのジュリエット・ナップが審査員として参加。従来の概念に捉われず実験的な創作を試行錯誤しチャレンジした作品及び団体に対して、< KYOTO EXPERIMENT 賞 > を設けます。

9.9（土）- 9.16（土）

会場：養正市営住宅6号棟跡 野外特設舞台

（住所：京都市左京区田中馬場町6-1）

主催：京都学生演劇祭実行委員会



©Tomo Wakita

📖 豊岡演劇祭 2023

9.14（木）- 9.24（日）

会場：豊岡市民プラザ、豊岡市民会館、芸術文化観光専門職大学、城崎国際アートセンター、江原河畔劇場、やぶ市民交流広場、香住区中央公民館ほか

主催：豊岡演劇祭実行委員会



☞ ニュイ・ブランシュ KYOTO 2023

9.30 (土) -10.28 (土)

*開催日時は会場により異なります。

*9.30 (土) は「スペシャルデー」として概ね全会場をお楽しみいただけます。

会場：京都駅ビル、関西日仏学館 他、京都市内各所

主催：京都市、関西日仏学館

プロデュース & コーディネーション：MUZ ART PRODUCE



©Céline WRIGHT 2021 年度ヴィラ九条山レジデント

☞ OKAZAKI PARK STAGE 2023

9.30 (土) -10.28 (土)

会場：ロームシアター京都 ローム・スクエア

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市



©Toshiaki Nakatani

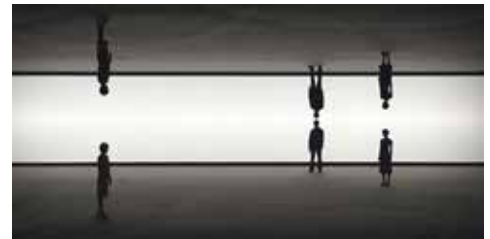
☞ ロームシアター京都フィルムプログラム

10.13 (金) -10.15 (日)

会場：ロームシアター京都 サウスホール

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

助成：令和5年度文化庁文化資源活用推進事業



高谷史郎『DUMB TYPE 高谷史郎ー自然とテクノロジーのはざま』

☞ 黒木結 『鑑賞のプロセス (仮)』

10.21 (土) -10.22 (日)

会場：THEATER E9 KYOTO

主催：黒木結

共催：THEATRE E9 KYOTO（一般社団法人アーツシード京都）



☞ 『公文協アートキャラバン事業 劇場へ行こう3』 参加事業

「老いと演劇」 OiBokkeShi 『レクリエーション葬』

10.22 (日)

会場：ロームシアター京都 ノースホール



イラスト：あさののい

製作：公益財団法人岡山文化芸術創造、「老いと演劇」 OiBokkeShi

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市、公益社団法人全国公立文化施設協会

助成：文化庁文化芸術振興費補助金統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業（アートキャラバン2） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

☞ Gathering in a better world – Visual Vernacular

10.22 (日)

会場：ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

主催：ゲーテ・インスティトゥート大阪・京都

協力：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館



KAZUKI / 那須映里 (左から)

☞ Ryoji Ikeda ultratronics [live set]

10.27 (金)

会場：ロームシアター京都 ノースホール

主催：codex | edition



ultratronics [live set] at WWW X
Photo by Ryo Mitamura

☞ 太陽劇団『1789』上映 & アリアヌ・ムヌーシュキンとのトーク

10.29 (日)

会場：京都芸術劇場 春秋座 (京都芸術大学内)

主催：京都芸術大学舞台芸術研究センター、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

特別協賛：公益財団法人稲盛財団



©Archives Théâtre du Soleil

☞ 太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ) 『金夢島 L' ÎLE D' OR Kanemu-Jima』

11.4 (土) - 11.5 (日)

会場：ロームシアター京都 メインホール

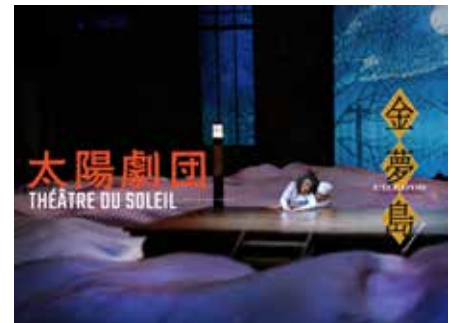
主催：ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

共催：京都新聞 特別協賛：公益財団法人稲盛財団

助成：アンスティチュ・フランセパリ本部 / LVMH

協賛：シャネル合同会社 後援：在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ、京都市教育委員会 文化庁 劇場・音楽堂等の子供鑑賞体験支援事業

共同招聘：東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団)



☞ Watch&Talk

新進気鋭の舞台芸術関係者に理論と実践の両面から交流の場を提供する国際プログラム「Watch & Talk」を、KYOTO EXPERIMENT 2023 がホストする。発見に満ちた1週間において、数カ国から選出された若手アーティストたちは、ファシリテーターとともに様々なパフォーマンスを鑑賞・ディスカッションを行い、世界各国から集まったプロの演劇人と出会い、フェスティバルに参加するアーティスト、批評家、舞台芸術の専門家との議論に参加する。



運営：Materialise (香港)

助成：公益財団法人セゾン文化財団、National Culture and Arts Council (台湾), Pro Helvetia (スイス) 他

会場

A: ロームシアター京都

／ミーティングポイント ローム・スクエア

京都市左京区岡崎最勝寺町 13

Tel 075-771-6051

- ・地下鉄東西線「東山駅」より徒歩約 10 分
- ・市バス 32、46 系統「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
- ・駐輪場あり、駐車場なし（近隣にみやこめっせ駐車場・岡崎公園駐車場あり）



ロームシアター京都, Photo by Shigeo Ogawa

B: 京都芸術センター

京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2

Tel 075-213-1000

- ・地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」下車、22・24 番出口より徒歩 5 分
- ・駐輪場あり、駐車場なし



京都芸術センター, Photo by Nobutada Omote

C: 京都芸術劇場 春秋座

京都市左京区北白川瓜生山 2-116 京都芸術大学内

Tel 075-791-8240

- ・叡山電車「茶山・京都芸術大学駅」より徒歩約 10 分
- ・市バス 3、5、204 系統「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車すぐ
- ・駐輪場あり、駐車場なし（原付・バイクはご遠慮下さい）

D: THEATRE E9 KYOTO

京都市南区東九条南河原町 9-1

Tel 075-661-2515

- ・JR「京都駅」八条口より徒歩約 14 分
- ・JR・京阪「東福寺駅」より徒歩約 7 分
- ・地下鉄「九条駅」より徒歩約 11 分
- ・駐輪場あり、駐車場なし



京都芸術劇場 春秋座, Photo by Toshihiro Shimizu

E: 京都市京セラ美術館

京都市左京区岡崎円勝寺町 124

Tel 075-771-4334

- ・地下鉄東西線「東山駅」より徒歩約 8 分
- ・市バス 5、46 系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- ・駐輪場あり、駐車場あり（有料 21 台分。近隣に有料駐車場あり）

F: コミュニティカフェ ほっこり

京都市南区東九条南岩本町 6 南岩本市営住宅店舗 101

- ・JR「京都駅」八条口より徒歩約 10 分
- ・JR・京阪「東福寺駅」より徒歩約 10 分
- ・地下鉄「九条駅」より徒歩約 8 分
- ・駐輪場・駐車場なし



THEATRE E9 KYOTO

G: ミーティングポイント 四条烏丸

京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町 637 第五長谷ビル B1F

- ・地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」下車、3 番出口直結
- ・駐輪場・駐車場なし

チケット情報

2023年8月4日(金)11:00よりチケット発売開始!

	アーティスト	前売券				当日券	席種	
		一般	ユース*・ 学生 *25歳以下	高校生 以下	ペア (前売のみ)			
1	イ・ラン	¥2,000	¥1,500	¥1,000	—	前売料金 と同額	参加料	
2	ウィチャヤ・アートマート ／ For What Theatre	¥3,500	¥3,000	¥1,000	¥6,500	前売料金 + ¥500 (高校生以下 は同額)	自由席	
3	チェルフィッチュ	¥4,000	¥3,000	¥1,000	¥7,500		自由席	
4	アリス・リポル／ Cia. REC	¥3,500	¥3,000	¥1,000	¥6,500		自由席	
5	バック・トゥ・バック・シアター	¥4,000	¥3,000	¥1,000	¥7,500		自由席	
6	山内祥太&マキ・ウエダ	¥3,000	¥2,500	¥1,000	¥5,500		自由席	
7	中間アヤカ ^{*3}	1week チケット	¥4,000	¥3,000	¥1,000		¥7,500	入場券
		1day チケット	¥2,500	¥2,000	¥1,000		¥4,500	
8	ルース・チャイルズ &ルシング・チャイルズ	¥3,500	¥3,000	¥1,000	¥6,500		自由席	
9	デйна・ミシェル	¥3,500	¥3,000	¥1,000	¥6,500		入場券	
10	マリアーノ・ペンソッティ ／ Grupo Marea	¥5,000	¥3,000	¥1,000	¥9,500		指定席	
11	サムソン・ヤン	入場無料					—	
—	Super Knowledge for the Future [SKF]	無料・予約優先 *一部有料プログラムあり SKFのプログラムはウェブサイトよりご予約ください。					自由席	
—	ミーティングポイント	入場無料					—	

* 中間アヤカ公演は公演期間中に何度でもご入場いただける「1week チケット」とご指定の1日のみご入場いただける「1day チケット」があります。

チケット取扱

📍 KYOTO EXPERIMENT チケットセンター

オンライン | <https://www.s2.e-get.jp/kyoto-ex/pt/> (セブン-イレブン引取またはQR発券)

電話予約 | 075-213-0820 (セブン-イレブン引取)

窓口 | 京都市中京区少将井町 229-2 第7長谷ビル 6F

取扱時間 | 平日 11:00-19:00 (開催期間中は無休)

📍 ミーティングポイント 四条烏丸

窓口 | 京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町 637 第五長谷ビル B1F

取扱時間 | フェスティバル会期中の木・金・土・日・祝日の 12:00-19:00

※ 9.30 (土) のみ 12:00-18:00

📍 ロームシアター京都チケットカウンター

オンライン | <https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/> (要事前登録)

電話予約 | 075-746-3201

窓口 | 京都市左京区岡崎最勝寺町 13 1F

取扱時間 | 10:00-17:00 無休 (臨時休館日等により変更の場合あり)

📍 チケットぴあ

オンライン | <http://t.pia.jp>

※オンラインは年中無休、24時間受付。

※一部演目は KYOTO EXPERIMENT チケットセンターでのみ取扱い。

※その他、各会場でもプログラムのチケット取扱いあり。(各会場で開催するプログラムのチケットのみ販売)

[京都芸術センター、京都芸術劇場チケットセンター、THEATRE E9 KYOTO]

フリーパスチケット & 各種割引チケット

📍 フリーパス | ¥28,000

📍 学生フリーパス | ¥16,000

Shows の有料公演 10 演目^{*1} をご覧いただけます。(1 演目につき 1 回。枚数限定。)

※学生フリーパスは要学生証提示。

※ KYOTO EXPERIMENT チケットセンターのみの取扱い / 前売のみ / 本人のみ有効

📍 3 演目券 | ¥8,700

Shows の有料公演のうち、マリアーノ・ペンソッティ『LOS AÑOS (歳月)』を除く 9 演目^{*1} の中からお好みの 3 演目を選び、全て同時に購入することでお得に観劇できるセット券です。

📍 『LOS AÑOS (歳月)』 + 2 演目券 | ¥9,800

マリアーノ・ペンソッティ『LOS AÑOS (歳月)』と、それ以外の Shows の 9 演目^{*1} の中からお好みの 2 演目とを組み合わせでご観劇いただけます。

📍 学生 3 演目券 | ¥6,900 (要学生証提示)

Shows の有料公演 10 演目の中からお好みの 3 演目^{*1} を選び、全て同時に購入することでお得に観劇できるセット券です。

*1 中間アヤカ『踊場伝説』は 1week チケットが対象

📍 KEX 半券割引

当日受付で、対象公演の観劇済み公演チケットの半券^{*2}、またはクーポン^{*3}をご提示いただくと、Shows の当日券が ¥500OFF (前売料金) にてご購入いただけます。

*2 KYOTO EXPERIMENT 2023 プログラム / フリンジ「More Experiments」

*3 パートナーホテル利用時、KYOTO EXPERIMENT フリーペーパーに付与

※チケット 1 枚につき 1 名、1 回のみ有効。 ※当日券のみの取扱で、残席がある場合に限りです。

📖 KEX サポーター

KYOTO EXPERIMENT は、国内外の実験的な作品を紹介するユニークなプログラムで、いまや世界に知られる日本でも指折りの国際舞台芸術祭となりました。しかし近年は新型コロナウイルス感染症拡大、国際情勢の変化や京都市の行財政改革の影響を受け、経済的に厳しい状況を迎えており、新たな存続の形を探っています。

2023 年度から、寄付を継続的な運営の柱のひとつとしていくために、「KEX サポーター」をスタートします。サポーター特典として、オリジナルグッズ、会員限定のスペシャルイベントへのご招待などをご用意しています。

KYOTO EXPERIMENT の活動の存続・発展のために、本制度の周知のご協力のほど、よろしくお願いいたします。

※ KEX サポーターとしてご支援いただく寄付金は、「ふるさと納税」制度の対象となり、税の控除が受けられます！

サポーター募集期間📅 6月14日（水）12:00～8月21日（月）23:59

URL 📄 <https://congrant.com/project/kyotoart/7238>

コース	Sakura	Ume	Take	Matsu
金額	1万円	3万円	5万円	10万円
オリジナルグッズ				
先行予約				
スペシャルイベント				 <small>+開演前の演目特別ガイド</small>
お名前の掲載				
1 演目ご招待				
2 演目ご招待				
3 演目ご招待				

📖 サポーター全員にプレゼント！

- KYOTO EXPERIMENT オリジナルグッズ
- フェスティバル開催期間中に受付で提示すると、特典が受けられる会員カード
- 前売券の先行予約のご案内
- スペシャルイベントへご招待（例：フェスティバル会期前に会員限定パーティ）
- ウェブサイト・当日パンフレットにお名前の掲載（希望者のみ）

※ 演目のご招待について

演目のご招待は、京都市外在住の方のみお受け取りいただけます。（ふるさと納税の制度のため）

スケジュール

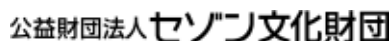
9月 10月

アーティスト	会場	24	30	1	2	3	4	5	6	7	8
		日	土	日	月	火	水	木	金	土	日
1 イ・ラン	東九条エリア各所		受付日程：フェスティバル会期中の金・土・日・祝日の11:00-18:00								
2 ウィチャヤ・アートマート / For What Theatre	B		14:00 ★	13:00 ♡ 17:00							
3 チェルフィッチュ	A		18:00	13:00 ♡ 18:00	14:00 19:00	14:00 ★ 19:00					
4 アリス・リボル / Cia. REC	A								19:00 ★	14:00 ♡	
5 バック・トゥ・バック・シアター	A									15:30	15:30 ★♡
6 山内祥太&マキ・ウエダ	D									18:00	13:00 18:00
7 中間アヤカ	出町柳駅周辺										
8 ルース・チャイルズ & ルシンダ・チャイルズ	E										
9 デイナ・ミシェル	B										
10 マリアーノ・ペンソッティ / Grupo Marea	C										
11 サムソン・ヤン	B		10:00-22:00	展示 10:00-20:00							
ミーティングポイント 四条烏丸	G		12:00-18:00								
ミーティングポイント ローム・スクエア	A										
Super Knowledge for the Future [SKF] ①ウィチャヤ・アートマート上映会&トーク ②伝承でたどる妖怪まちあるき ③アリス・リボル 特別トーク ④バック・トゥ・バック・シアター ワークショップ ⑤シアター?ライブラリー? ⑥アイデンティティの「まぜまぜ」は可能か? ⑦ことばの混交の果てに——『クレオール主義』30年 ⑧ルース・チャイルズ ワークショップ ⑨芸術文化とファンドレイジング ⑩メディアとしての染織 ⑪ KEX ラジオ	p.23-26	① 15:00		② 10:00						③ 16:30	
							⑩ 19:00	⑪ 12:30			

9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	上演時間	
月・祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日		
体験期間：9.30 (土) -10.22 (日) 受付日程：フェスティバル会期中の金・土・日・祝日の11:00-18:00														—	
														70 min (予定)	
														90 min (予定)	
														60 min	
														60 min	
15:00 ★														60-90 min (予定)	
10:00-21:00			休演日	10:00-21:00			10:00-20:00								—
				20:15	20:15	20:15								65 min	
										18:00 ★	18:00	16:00 ♡	180 min		
											14:00 ★	13:00 ♡	105 min		
展示 10:00-20:00														—	
入場無料 12:00-19:00 (木・金・土・日・祝) * イベントがある日はオープン時間を延長することもあります。														—	
入場無料 13:00-18:00 (土・日・祝) * イベントがある日はオープン時間を延長することもあります。														—	
④ 11:00	⑤ 10:00-20:00												⑩ 11:00	—	
			⑥ 18:30 ⑪ 12:30			⑦ 15:30			⑧ 19:00 ⑪ 19:00	⑨ 19:00			⑪ 12:30	—	

👉 開催クレジット

- 主催** 京都国際舞台芸術祭実行委員会
 京都市
 ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
 京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）
 京都芸術大学 舞台芸術研究センター
 THEATRE E9 KYOTO（一般社団法人アーツシード京都）
- 助成** 文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（国際芸術交流支援））
 独立行政法人日本芸術文化振興会
 一般財団法人地域創造
 公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド
- 助成**（個別プログラムに対する） 文化庁文化芸術振興費補助金（統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業（アートキャラバン2）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会
 JAPAN LIVE YELL project
 公益財団法人セゾン文化財団
- 共同主催** 独立行政法人国際交流基金（ウィチャヤ・アートマート / For What Theatre）
 * 令和5年度国際交流基金舞台芸術国際共同制作事業として制作
 Dance Reflections by ヴァン クリーフ & アーペル（ルース・チャイルズ&ルシング・チャイルズ）
- 特別協賛** 株式会社社長谷ビル
- 協賛** 株式会社アイ・ディー・エー、有限会社香山建築研究所、大和リース株式会社
- 後援** アルゼンチン共和国大使館、オーストラリア大使館
- 機材協力** 株式会社流（RYU）、有限会社クワット、株式会社タケナカ
- 協力** ケベック州政府在日事務所、ゲーテ・インスティトゥート大阪・京都



京都国際舞台芸術祭実行委員会

- | | |
|------|--|
| 委員長 | 天野文雄 (能楽研究者／大阪大学名誉教授) |
| 副委員長 | 森川佳昭 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団専務理事) |
| 委員 | 安藤善隆 (京都芸術大学 舞台芸術研究センター所長／同大学教授) |
| | 梅山いつき (演劇研究者／近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻准教授) |
| | 小倉由佳子 (ロームシアター京都 事業課長) |
| | 小崎哲哉 (ICA 京都 REALKYOTO FORUM 編集長) |
| | 蔭山陽太 (一般社団法人アーツシード京都理事／THEATRE E9 KYOTO 支配人) |
| | 小山田 徹 (美術家／京都市立芸術大学教授) |
| | 牧澤 憲 (京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課事業推進担当課長) |
| | 山下 聡 (公益財団法人京都市芸術文化協会専務理事兼事務局長) |
| | 吉岡 洋 (美学者／京都芸術大学 文明哲学研究所教授) |
| 監事 | 東 憲明 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団／ロームシアター京都 副館長) |
| | 倉谷 誠 (京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課長) |
| 顧問 | 太田耕人 (演劇評論家／京都教育大学学長) |
| | 茂山あきら (狂言師／NPO 法人京都アーツミーティング理事長／THEATRE E9 KYOTO 館長) |
| | 篠原資明 (京都大学名誉教授) |
| | 千 宗室 (裏千家家元) |
| | 建畠 哲 (詩人／美術評論家／京都芸術センター館長) |
| | 畑 律江 (毎日新聞客員編集委員／大阪芸術大学短期大学部客員教授) |
| | 平田オリザ (劇作家・演出家／劇団「青年団」主宰／芸術文化観光専門職大学学長) |
- (五十音順)

京都国際舞台芸術祭実行委員会事務局

- | | |
|-----------------|---|
| 共同ディレクター | 川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・礼子・ナップ |
| 事務局長 | 垣脇純子 |
| 事務局 | 井上美葉子、門脇俊輔、渡邊裕史 |
| 広報 | 小倉千裕、豊山佳美、前田瑠佳 |
| 広報アドバイザー | 松本花音 (ロームシアター京都) |
| 広報サポート | 當間 芽 |
| 制作統括 | 山崎佳奈子 (KANKARA Inc.) |
| 制作 | 勝冶真美、清水 翼 (KANKARA Inc.)、武田侑子、眞鍋集介
[ロームシアター京都] 垣田みずき、枡谷雄一郎
[京都芸術センター] 瀬藤 朋、中谷圭佑、平居香子
[京都芸術大学 舞台芸術研究センター] 後藤孝典、藤井宏水
[THEATRE E9 KYOTO] 奥山愛菜、木元太郎 |
| ミーティングポイント運営 | 原田桃望 |
| テクニカルディレクター | 夏目雅也 |
| テクニカルデスク | さかいまお |
| テクニカルコーディネーター | 北方こだち、小林勇陽 |
| 事務局インターン | 永澤萌絵、山田美季子 |
| ドキュメントコーディネート | MUESUM (多田智美、永江 大、鈴木瑠理子) |
| 和文英訳 | Art Translators Collective (リリアン・キャンライト、水野 響、森本優芽、内山もにか)、
ウィリアム・アンドリュース |
| アートディレクション・デザイン | 小池アイ子 |
| ウェブディレクション | bank to LLC. (光川貴浩、早志祐美、松田寛志) |
| ウェブデザイン | 吉田健人 (bank to LLC.) |
| ウェブプログラム・コーディング | 人見和真 (bank to LLC.)、若林成実 (bank to LLC.) |
| アドバイザーボード | レザ・アフィシナ (アーティスト、「ルアンルパ アーツラボラトリー」ディレクター) |
| | 細尾真孝 (株式会社細尾 代表取締役社長) |
| | アンナ・ヴァグナー (フランクフルト・ムゾントウルム劇場アーティストティック & マネージング・ディレクター) |